平成２７年度　京都市立西総合支援学校教育課程構造図

学校教育目標

**「できる」自分を知り，夢や希望を持って，自ら
ひと・もの・ことに向かう子どもを育てる**

教育理念

●個別の包括支援プランによる子どもの「生きる力」と保護者への支援
- 児童生徒は「できる」状況や手だてがあれば「できる」存在である
- 一学級一担任制の継続

●児童生徒を地域に生きる一人の生活者としてとらえる
- 子ども自身の志向を育み，尊重する
- 発達の道筋に沿い，生活年齢を大切にする
- 変化する社会の情勢を見通し，実際に生きる地域で学習を展開する

めざす子どもの姿

- 自らあいさつする人
- 健康な体づくりに努める人
- 環境を大切にする人
- 自分も友だちも大切にする人
- 仲間と協力する人
- 責任を持って最後までやり抜く人
- 自分で選び，自分で決める人

めざす学校の姿

- 子どもたちが楽しく学べる学校
- 保護者が子どもの成長を実感できる学校
- 地域から信頼される学校
- 教職員がやりがいを持って働ける学校

指導の重点

●「できる」に基づく，適切な目標や課題の設定
（「できますシート」の活用）

●子どもの「できる」を活かす教育の推進
- 子どもの願いから出発し，「できる」を活かす授業展開と検証・評価
- 心と体の自立活動の推進
- 心のバリアフリーを目指す人権教育の推進
- 地域支援ネットワークづくりの推進
- 交流及び共同学習等，居住地学習の推進
- 一人一人の育ちの過程を伝える実践の推進

（情報バンクの運用）

●一人一人の継続的キャリアアップ支援

キーワード

今この瞬間の自立　継続的キャリアアップ　情報移行（伝える）

小学部・中学部・高等部・家庭・地域の継続性（受け継ぎ）と連続性（繋がり）のある教育課程の創造

指導部重点目標

小学部

のびのび遊び，自信を持って，自ら活動する

めざす子どもの姿

●健康で丈夫な体をつくる
●身近なひと・もの・ことに，自らかかわる
●新しいことに挑戦しながら，好きなこと，楽しいことを，自ら見つけ，自ら選び，自ら活動する
●ひととのかかわりを深める中で,「できる」自分を知り，役割を果たそうとする

指導の重点

◆様々な発達，障害，特性を踏まえ，個別の包括支援プランをもとに，一人一人に応じたカリキュラムをつくり，成功体験を重ねながら「生きる力」の基礎基本を培う指導を展開する
◆一人一人に応じた，できる状況づくりや支援を工夫し,「できる」を育て,「できる」を活かす授業づくりを行う
◆家庭や地域での生活，居住地学習，学校での学習における「できる」を，保護者や諸機関と連携する中で伝え合い連続的，継続的な支援をめざす

キャリアアップ支援コーディネータの役割

●「できる」を活かして交流及び共同学習を進める

中学部

学校や家庭や地域とのかかわりの中で，自ら考え，自ら活動する

めざす子どもの姿

●健康で丈夫な心と体をつくる
●地域の中で，ひと･もの･こととのかかわりを広げ，深める
●友達や支援者と一緒に取り組む中で，自分の気持ちを発信し，相手の気持ちをわかろうとする
●地域や家庭生活の中で，「できる」自分を知り，自ら役割を果たそうとする

指導の重点

◆「活動パッケージ」を使ってできる状況づくりや支援を工夫し,「できる」を育て「できる」を活かす授業づくりをすすめる
◆「活動パッケージ」をもとに，家庭や地域の公共施設･支援者に生徒の「できる」姿を伝えていく
◆ユニット同士の連携を深め，一人一人の生徒が地域でより豊かに生活していくための手立てを共有する
◆居住地域の様子や活用できる地域資源を調べ，授業に活かす

キャリアアップ支援コーディネータの役割

●「できる」を活かして交流及び共同学習，地域での学習を進める

高等部

社会の一員として，自ら学び，自ら行動する

めざす子どもの姿

●社会の一員として生きるための，心と体の健康づくりに努める
●ひと・もの・こととのかかわりの中で，必要な時に，必要な支援を自ら求める
●「できる」ことを通して，社会の一員として，自ら役割を担い，継続的にキャリアアップしようとする

指導の重点

◆一人一人の「できる」を卒業後の生活に活かす授業を展開する
◆社会の一員として役割を担う将来の姿を生徒・保護者とともに具体的・現実的にイメージし，実習や地域資源の活用を通して生徒をとりまく社会に働きかける
◆生徒・保護者・関係者とともに，生徒自らが地域で生きるネットワークを構築し，卒業後の豊かな生活のために情報を伝え，繋ぐ

キャリアアップ支援コーディネータの役割

●「できる」を活かして働くことを学ぶ学習を進める
●２年生時点での「できる」姿を３年生の進路選択・決定に繋ぐ

情報バンクを運用し伝え繋ぐ

総務部重点目標

●教職員一人一人が，学校教育目標を実現する主体者として，自らの果たすべき役割を明確にし，責任を持って，お互いに連携・協働できるように円滑な学校運営を推進する
●保護者や地域の願いを把握し，地域ぐるみの学校づくりを推進する
◆学校評価に基づき，学校運営協議会（コミュニティ・スクール），保護者，地域や関係機関と連携した共同事業の実施と研究実践
◆教育活動への支援と多様なニーズに応じる地域の教育力の向上

支援部重点目標

≪校内支援の充実≫
●指導部，総務部との相談や情報交換を密にし，連携のもとに充実した校内支援を行う
●特別非常勤講師や外部専門家を効果的に活用し，各学部と連携して子どもたち一人一人の継続的キャリアアップを支援する
●校内支援を通して，教職員の専門性向上を図り，個別の包括支援プランをもとにした実践へ活かす
≪センター機能の充実≫
●地域の障害のある子ども，保護者，教職員のキャリアアップを支援する「育」支援センターの取組を推進する
●障害のある子どもが地域の中で安心して生活できるように，地域・学校・福祉等の関係機関と連携しネットワークを密にして，新たな「地域」の創造をめざす

保護者重点目標

●学校・地域との連携を密にする
●子どもたちの自立をめざし，子どもたちの「できる」「やってみたい」を大切にした教育（キャリア教育）の考えをもとに，個別の包括支援プランの策定に参画し実施に努める
●地域活動を中心とした余暇活動の充実を図るとともに「双方向の援助」の実施に努める
●子どもたちが安全で暮らしやすい地域環境づくりと，保護者同士の子育て支援の実現をめざし協力し合う

教育改革目標　＜長期に亘って本校がめざすもの

☆キャリア教育を根幹に据えた教育の創造とキャリアアップ支援システムの構築
☆学校から地域へ，地域から学校へ，双方向の援助による新たな「地域」の創造
☆地域のキャリアアップ支援センターとして機能する「育」支援センター